

父

父一匹、赤子を抱いて、平日昼過ぎのバスに乗る。

かならずおばちゃん、おばあちゃんの類が「あら、パパに抱っこされていいわねえ」と赤子の息子に時候の挨拶をした後、「ママはどうしたのかな？」との決め台詞を放ちながら、キョロキョロというはずもないママの姿を俺の背に探す。

男一人で赤ん坊を連れているなんて、誘拐犯か超ロリコン男しか思いつかないらしい。

毎度毎度、おばさんデカの尋問に答えるのが面倒臭いので、「ママはこの子を産んだ時に...」、「ママは男を作って逃げました」、「いいえ、私がママですけど。クリちゃん見せましょうか?」とTPOに応じて、正解を使い分けている。

豆クリ知識。ベビーカーを押しながら、突然猛ダッシュするとみんなが振り返る。気分は即席スターだが、きっと誘拐したての赤ちゃんを連れて逃げ出したとでも思うのだろう。

その際、赤ん坊が泣いていたら、間違いなく通報ものだ。

この前、真夜中になかなか息子が寝ないので、ゆらゆら揺れるベビーカーなら寝つくかと夜散歩にしけこんだら、新手の変質者と誤解されたよ。

ズラリと並んだ、赤ちゃん休憩室のベビーベット。

隣のベビーベットあたりに、ちょうど同時にオムツに手をかけたライバルがいたならば、オムツ早替え大会、よ〜い、ドン！

なにごともスタートダッシュが肝要である。

ライバルは大抵かあさんで、競争相手が男と見て、みくびっている。

その証拠に、お手並み拝見とばかりに、とりあえず横目で俺の手際を見ながら、のんびりと自分の子供のオムツをずりさげている。

余裕シャクシャクのはずの視界の端に、信じられない光景が飛び込んでくる。

オムツの中身、大小も確かめず、ズボン、オムツを合わせて一気に脱がし終えた男の姿が。

別に、大小を確かめていないわけではない。

俺レベルのとうさんになると自慢じゃないが、オムツを脱がせる前に、今回は大か小か一瞬にして見分けられるのだ。

抱っこしてベビーベットにゆっくり寝かす際、ほんのりウンコの香りがしたら、おおむね大だ。この場合、イッキ脱がしは自粛する。

もちろんノーウンコと判断し、イッキイッキで、大惨事になることもあるがな。

オナラだけのとき、一番判断が難しいが、男には負けると分かっているてもやらなきゃいけないときがあるんだ。

お先にイカせて貰います。

このオムツ勝負のイッキ脱がしの結果は幸い小だった。

横目でライバルかあさんを見やる。慌てて俺の真似をして、ズボンとオムツを同時に脱がそうとし、こんがらがっている。

素人さんがマネするとヤケドするぜ。

勝利を確信し、余裕を見せつけるため、あえて新しいオムツはまだはかせず、ウエットティッシュを取り出して、息子のムスコちゃんと金玉ちゃんをキレイキレイにふきふき。

元ライバルかあさんかというと、出遅れた分を取り返そうと更に焦って、おでかけセットのカバンからオムツをいまだに探している始末。

フッ、俺にオムツ勝負を挑むなんて100年早いわ、出直してこいや！

そんじょそこらの一山いくらかあさん連中と、俺は背負っているもんが違うんだ。

俺は常に未来のとうさんたちを背負いながらも、男の子育ての代表者として、日々子育てを楽しんでいる。

息子がとうさんになる未来まで、「男だからオムツ替えすらノロノロ」なんて舐められ続けちゃいけない。

圧倒的女性優位社会のクソぬるま湯で、のほほんとオムツ替えをしているかあさん連中には分かるまい。

男がオムツ一枚を替えるのに、どれほどの苦勞に苦勞を重ねているのか。

例えば、昨今のファミレスにもオムツ替えシートくらいはある。しかし、まだまだ大半は女子トイレの中のみである。

たまに男女共用のトイレもあり、そこについている場合もあるが、男子トイレのみにオムツ替えシートがついていることはない。

ちょっと気が効く店員がいると、女子トイレを一旦封鎖し、お情けでオムツ替えシートを使わせてくれる。

でも大抵は、そんな情けは無用とばかりゆえ、仕方なくコッソリと席でオムツを替えていると「ココでオムツを替えないでください」と女店員が嬉々としてやってくる。

「あからさまな男女差別で、この店には女子トイレにしかオムツ替えシートがないので、ココで替えざるを得ない」と口答えしようものなら、待ってましたとばかりに「じゃあ、私が替えましょうか」と俺の息子のムスコちゃんを狙ったロリコン発言連発！「お前みたいなフケた義理娘はいらん！」

そんなこんなのやり取りをしている間に、てきぱきとオムツ替えは済ませて、「今度から気をつけま〜す」と大人の対応で腐れ店とはオサラバ。

オムツは机の下にポイッ！

ファミレスですらこうなのだから、街中ではもっと困る。

やりたがりのビンボー高校生カップルが街中の無料ハメ場所を探し求めるように、俺はお手製の赤ちゃん休憩室マップ片手に、なるべく目立たずオムツを替えられる新規の場所を延々と探すハメになる。

そうそう、ハメで思い出したがこの前、某ヨドバシカメラの赤ちゃん休憩室でハメてんじゃねえよ！

使用中の札のついた赤ちゃん休憩室の中から、明らかにオムツ替え中というよりは、オムツプレイ中っぽい怪しげな声があるので、執拗にドンドンと扉を叩き続けたら、上気した顔の高校生カップルがそそくさと！

んまあ、いやらし！ 結構かわいいじゃない。混ぜて！

てか、息子のウンコオムツがすぐ替えられなくて、ちょっと固まっただろう。だから責任取って、スカトロ3P、いや息子も混ぜてのスカトロ4Pをっ！

でも、息子の初体験がスカトロ4Pだと、なんか負けた気がする、初体験はソープ2Pだった複雑な父心。

とうさんのパイオツは軽く100センチ越えを誇るが、父乳は出ない。

なので、おでかけリュックに、煮沸消毒済みの哺乳瓶数本と、あらかじめ小分けにしておいた粉ミルクをいくつか、水筒に入れた熱湯1リットルを大事に入れて持ち運んでいる。

さて先日のこと、某デパートの赤ちゃん休憩室でカツアゲをされた。

とうさんが颯爽とミルクを作っていると、おばあちゃんと娘と孫の3人組が現れ、おばあちゃんがにじり寄ってきた。

「おいおい、惚れるなよ」と念じながら、粉ミルクに注いだお湯がちょっぴり240ミリになるよう慎重に水筒のお湯を注ぐ。

おばあちゃんから第一声が飛ぶ、「終わったら、お湯を分けてください」と。

一瞬なんのことか分からず、「このババアは遠回しにセックスしてください」と懇願しているのかといぶかしむ。

「だから、お湯です、お湯」

でもどうやら、ストレートにお湯をカツアゲしているだけらしい。

おいおい、セックスならまだしも、なんでこの俺様が息子のために、わざわざお家でお湯を沸かして、水筒に入れ、散々重い思いをしながら運んできた貴重なお湯を、しかもこの後すぐ俺と息子は帰宅するわけでもなく、新たなお湯を補給できるあてもない状態、つまりうちの子がまだミルクを飲むかも知れないのに、見ず知らずの欲求不満なくせにお湯一つ満足に用意してきてねえクソババアに恵んでやらなければいけないのか。

そんな気持ちをグッと押さえて、

「じゃあ、100万でいいよ」

と水商売を始めたら、「じゃあ、結構です」ってプリプリ怒って立ち去る。

その背に「まず最初は10倍くらいふっかけるのが水商売のイロハなんだから、まずは値切れよ、このド淫乱ババアがっ！」とお別れのご挨拶。

まったく、最初から男だと思って舐められているので、子供を守るためにも、その手の輩には遠慮せずにガツンとやってやらなきゃダメである。

最後にホロリとする話をば。

ある日の赤ちゃん休憩室。目の前で携帯粉ミルクをぶちまけた美人ヤンママに、いつも予備の

予備の予備で持ち歩いている携帯ミルクを「もしよかったらコレを」と差し出したこともある。
もちろん手渡しがけの駄賃で手を握った。後、美人ヤンママ、ノーブラだったよ。

うちの息子はイケメンだ、道行く人が思わず振り返るほどの。

でもとうさんの顔をチラリと一瞥し、「ああ、いずれこうなっちゃうのか…」とちょっとガッカリした顔すんなよ、すれ違いざまに器用に、通行人1の分際で！

いいか、よく聞け！ 「この子も将来、このお父さんみたいに…」じゃなく、「このお父さんも昔、この子みたいだったのか…」と思えば、俺がちょっとうれしいじゃないか。

まあ、確かに俺と息子は似ていない、今は。

でも、クリソツだった時期もあるんだ、信じてくれ！

かわいそうに十月十日も羊水なんかに浸かったせいで、パンパンにむくんだ顔でヒョッコリと汚穴から出てきた後の数時間は、とうさんとクリソツともっばら噂になった。

ハックション！

またナースどもが俺の噂をしてやがるな。さ、思い出しオナニーでもするか。

とうさんちゅう生き物は、女にジロジロと視姦されるのも大事なお仕事だ。

いまだに、歴史ある子連れ父なんかそんなめずらしいのか、ファミレスで盗撮されたことすらある。

きっと江戸時代の本家、子連れ狼も同じ悩みを抱えていたろう、「携帯撮影は勘弁して欲しいでちゅよねえ〜、大五郎ちゃん」、「ちゃ〜ん」。

ファミレスの隣の席にかあさん集団がいようものなら、遠慮なしに一部始終を覗き見される。当然、とうさんらしい珍プレイや空振り三振的子育て連発を期待されているのはヒシヒシと感じる。

しかしこの俺様がそんなやっすいプレッシャーに負けるはずもなく、ファインプレイやスーパープレイ子育てを連発だ（プレイの詳細はまだ未定）。

そして、かあさん集団に勝利の一瞥をくれてやる。

たった一度や二度くらい穴っぽこ痛めたくらいでデカイ顔しやがって、どうせ散々出し入れして、元々ガバガバだったくせになって感じで。

こういう態度に腹が立つらしい。かあさん集団ムッ。

ふん、くやしかったら、チンコ立ててみる、バ〜カ〜！

使い古された女の子育ての猿真似なんてするもんか！俺はまささらな新品の男の子育てをやるんだい。

子育て男が全員、てめえらの下請けだと思ったら、大きな間違いだ！

どうやら心の声がさっきからダダ漏れだったみたいで、これみよがしに男に育てられた子供はいかにダメになるかの女に都合のいい想像話を語り出す。

こういうとき、女ルールでは「ムキッ〜、後で靴に画ビョウ入れてやる〜」とか思うだけなのだろうが、俺には関係ねえ。

「おい、そこのクソババアども！とぼけんな、てめえらのことだ、時計回りでドブスと、もっとドブスと、正統派ドブスと、トップドブス。これみよがしにしょうもねえ負け惜しみ言いやがって。どうせ旦那にはもちろん、他の男にも構ってもらえず、長年欲求不満なんだろ、腐ったマンコの臭いがプンプンすんだよ、俺は今、ピザ食ってんだ！」くらいは軽く朝飯前のマシンガンボーイズトークを、かあさん集団が退散するまでしちゃうから、マジで。

子供を連れているとキチガイと認識されずらいが、隠れ狂犬父に喧嘩を売る際はご注意を！

ちょっとコーヒーブレイク！

片手に息子を抱っこしながら、コーヒーを楽しみつつ、パソコンをやっていた時のこと。

ちょっとエロサイトに目を放した際に、ノートパソコンのキーボードめがけて、息子がコーヒーをジャ～。

ジュウジュウ、バチバチバチッ！

部屋中に香ばしい入れたてのコーヒーの香りが漂ったとさ。

男同士の裸の付き合い。

「イヤン、どこ見てんのよ、H！」なんてノリで、チンコをブラブラさせながら、息子を風呂に入れますわな。

まず息子をダッコして、流し湯がてら、「お客さん、こういうところは初めて」なんて父子の会話を交すわけですよ。

そしたらよう、そんな仲良しだけどまだ泡プレイ前なのに、突然息子がオシッコをジャ〜ってかけてきやがった…。

もうすっごい反抗期！ ヨッシャ〜、ばっちこい！

獅子は我が子を千尋の谷に落とすという。

でも、ココは千尋の谷ではなく、お風呂場。

この狭い湯船も赤子にとっては千尋の谷っぽいけど、さすがにちょっとアレかな。

よし、目には目を、オシッコにはオシッコを作戦発動！

風呂場のオシッコ仇を、風呂場でオシッコ討つ。

狙いを定めて、息子のムスコ目掛けて、オシッコジャ〜。

キャッキャッと喜ぶ息子。

それを目を細めて見守る父（オシッコ中）。

日本語には「連れション」、「貰いゲロ」なんて有名な美しい言葉がある。

息子のウンコ入りオムツを替えているとついつい釣られて、「釣りウンコ」をしたくなるのが人情だ。

しかし赤ん坊の前で毎度毎度、「釣りウンコ」を垂れていては、父の威厳が台無しだ。

男子トイレの大トイレにも、子供をチョココンと座らせておく用の小さな椅子が設置してあるところがある。

もうホント超アリーナ席でウンコのお釣りが飛んできそうなくらいで、至近距離でウンコをしている顔をマジマジと眺められちゃう！

しかもアンコールアンコールなんてされた日には、頑張って二度目のウンコを気張ってみてたり。また会おう、ありがとう～。

それにしても、赤ん坊はなぜ食事中にウンコをするのだろうか？

結局、食事中にウンコオムツを替えると、ついでに「釣りウンコ」をするハメになりがちだ。

しかもあーた、それがカレーの日と来た日には、俗に言う、今日はカレーとウンコの記念日に早変わり。

つまりカレーの合間にウンコを替えるデーってことよ。

手順は、食べかけのカレーを置いて、カレーみたいなウンコオムツを素早く替えて、ココで「釣りウンコ」に行ったら負けかなと我慢し、ちょっと冷めかけたカレーをガツガツ食べる。

うまい！ あ、ガツついたから、指にカレーがついちゃった。

お行儀悪いけどペロリと舐めちゃ...こ、このお味はウ、ウン...え～い、おかわり！

とうさんの夢はなあ、息子の結婚式で息子と肩を組んで、チェリーロードを歩くことだ。

ま、そこいらのアバズレズベタなんかに、かわいい息子をやる気は更々ないがな。

だから遠い将来、「もう一生結婚なんかしない。ずっと家にいてお父さんを困らせてやる」なんて息子に言われたら、父冥利に尽きる。

もう死んでもいい。腹上死と迷うところだが。

冬の電車、とうさんの太い腕に抱かれて眠る、我が子。
暖かい車内に入るなり、脱がしたコートを寒くないようにかけてやっている。

そろそろ目的の駅だ。
息子を起さぬよう、そっとそっと小さな手に袖を順に通し、コートを着せる。
ゆっくりしゃがみこんでベビーカーにふわりと乗せる。
その一部始終を見ていた男子高校生が尊敬のまなざしを向ける。

俺は照れて、しゃがみこんだまま、男子高校生の隣の女子高生のミニスカートからパンツが見えないか目を細める。

黒か。いや、具か？（続く）

毎日とうさん

<http://p.booklog.jp/book/30060>

著者：山田夫妻

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/yamadafusai/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/30060>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/30060>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社paperboy&co.